

# 図書館だより



No. 9

平成 26 年 1 月 30 日

年が明け、もう1ヶ月が経とうとしています。2014年、みなさんはどんな目標を掲げましたか。それぞれが新たな目標に向かって、躍進してください。今年もみなさんにとって良き1年となりますよう祈っています。

さて、2月になると、節分が待っています。今年の恵方は、『東北東』とのことです。その年の幸福を招くとされる恵方に向かって、今年も願い事をかけながら恵方巻きを丸かじりしましょう。恵方巻きもですが、節分といえば、豆まき。川越にある喜多院では、2月3日に節分会が行われ、その中で豆まき式が行われます。豆まき式で豆をまくのは、その年の年男にあたる人たちで、「福は内」だけを唱えるのが、喜多院の豆まきの特徴です。毎年多くの人で賑わっているの、近くに住んでいる人はぜひ足を運んでみてください。

そして、節分を過ぎると、次に待っているのはバレンタイン。毎年、この時期には、チョコレート菓子のレシピ本をまとめて展示していますが、展示と同時に次々と貸し出されていく人気の高さです。今年もたくさんレシピ本を展示して、みなさんの手作りバレンタインを応援します。

## 節分の日の運命的な出会い\*

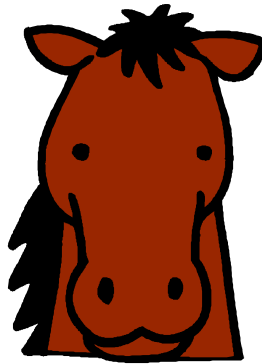
### 913.6-キ『恋都の狐さん』 北 夏輝 || 著 講談社

東大寺二月堂で行われる豆まきの誘惑に負け、大学の授業を放棄して、いそいそと二月堂に向かった“私”は、衝撃的な人物と出会う。その人は濃紺の着物に下駄を履き、顔には狐のお面をつけていた！そして、隣には美女。この不思議な雰囲気ふたりと私は妙にウマが合い、二月堂、元興寺、興福寺と豆まきのハシゴを共にしたのをきっかけに交流が始まる。その内に私の中に狐さんへの恋心が芽生え始め、同時にいつも隣にいる美女 揚羽さんと狐さんの関係が気になり始め、悶々と悩んでしまう。そんな時、狐さんの秘められた過去を知った私は、この恋にひとつの答えを出す。

## 今年のバレンタインは濃厚スイーツで決まり\*

### 596-ク『濃厚スイーツ』 隈部 美千代 || 著 柘出版

「濃厚」とつくだけで、「どんなおいしいレシピが紹介されているのだろう！」と期待が膨らんでしまうこの本。中を開くと、その期待どおり、見るからにおいしそうなお菓子とそのレシピが載っています。濃厚チョコレートケーキや生チョコ風ガトーショコラなど、バレンタインにもってこいのお菓子以外にもプレミアムシューやダブルチーズケーキなど、いつものお菓子のワンランク上の味を楽しめそうなレシピがたくさん載っています。さあ、みなさんはどのレシピに挑戦してみますか。



## ソチオリンピックまであと少し

去年は2020年の東京でのオリンピック開催決定に日本中が沸き立ちましたね。6年後の東京オリンピックも今からとても楽しみです。来月の2月7日(金)からロシアのソチで開催される冬季オリンピックも楽しみです。

ソチオリンピックではスキー、スケート、アイスホッケー、ボブスレー、リュージュ、カーリング、バイアスロンの7競技98種目が17日間に渡って行われます。みなさんはどの競技のどの種目を注目していますか。

日本代表選手の中には、スキージャンプ女子の高梨沙羅選手、スノーボード男子の平岡卓選手、スピードスケート男子のウィリアムソン師円選手など、みなさんと同年代の選手も多くいます。10代という若さで世界を舞台に活躍する選手たちの姿は、きっとみなさんの胸に熱い感動を与えてくれることだと思います。それぞれの選手の活躍を期待して、全力で応援していきましょう。



## ロシアってどんなところ？\*

### B293-ル『るるぶ ロシア』 JTBパブリッシング

日本の隣国でありながら、知らないことの多いロシア。どんな魅力があるのか、気軽に知るのに役立つのがガイドブックです。

ロシアといえば、『白鳥の湖』、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』と三大バレエの生まれた地であったり、世界四大美術館のひとつ『エルミタージュ美術館』があったりと、芸術の面での見どころが充実しており、様々な観光スポットが紹介されています。また、ロシア生まれの文学者ドストエフスキーやトルストイなどの足跡を辿る探訪といった通な楽しみ方の紹介やマトリョーシカやピロシキ、ボルシチなど、ロシアの民芸品やグルメの情報など、気軽に楽しめるロシアの魅力も紹介されています。

## ソチの前に必読の1冊\*

### 784-ア『浅田真央 さらなる高みへ』 吉田 順 || 著 学研教育出版

この本では浅田真央選手の誕生から20歳での世界選手権までの歴史が綴られています。

11歳にして三回転半のトリプルアクセルを跳び、15歳でグランプリファイナルを制しながらも、トリノオリンピックでは年齢規定の壁に阻まれた。目指すはその4年後の2010年バンクーバーオリンピック。出場を手にするまでの長い道のりで、絶頂期からスランプにも陥った。焦りも不安もたくさんあった。けれど、浅田選手はいつも前を向き、自分に納得のいく演技、パーフェクトな演技をすることを胸に滑り続けた。華やかな演技の裏に隠された山のような努力の積み重ねや苦悩を知っていくと、さらに浅田真央という選手の魅力に気がつきます。バンクーバーでは銀メダルでしたが、あれからさらに4年の努力を積み重ねた今回のオリンピックでの演技に大きな声援を送りたいと思います。

## 🦋 世界を旅する12ヶ月 ～ドイツ～ 🦋



「世界を旅する12ヶ月」第8回目は、ドイツです。首都はベルリン。ベルリンには冷戦中の1961年に東ドイツによって西ベルリンを包囲する壁が建設されましたが、1989年に破壊され、東西ドイツが統一されました。

西部にはライン河、南部にはドナウ河と大河が国土を流れ、国境はデンマーク、オーストリア、スイス、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フランス、ポーランド、チェコの各国があります。

また、シンデレラ城のモデルになったノイシュヴァンシュタイン城や孤島の名城ホーエンツォレルン城、世界遺産の城壁リーメスなどが多くの名所があります。さらに、ベンツやポルシェ、BMWなどドイツ車には世界的に有名な車が多く、博物館などが充実しています。

### \*グリム童話の世界を旅する

293-チ 『ドイツ・メルヘン街道』 沖島 博美 || 文 朝倉 めぐみ || 絵 ダイヤモンド社

メルヘン街道とは、ドイツ・フランクフルトに近いハーナウから北ドイツのブレーメンまでを結ぶ、およそ600kmの観光街道のことを言います。このメルヘン街道には、グリム童話にゆかりのある地を結んでいます。グリム兄弟の生誕の地やゆかりの地、赤ずきんの故郷と呼ばれる地やハーメルンのネズミ獲り男の伝説で知られる町などグリム童話の舞台となった町や場所が多く存在します。それぞれの土地の紹介と合わせて、グリム童話についての解説も色々載っていて、旅する楽しみとグリム童話を深く知る楽しみの両方を味わうことができる本です。写真だけでなく、グリム童話の雰囲気にとぴったりのイラストがついていて、それを見るのもこの本の楽しみ方のひとつになっています。グリム童話集と合わせて、読むのもオススメです。

### \*おしゃれなカフェの街

673-ク 『ベルリンのカフェスタイル』 久保田 由希 || 著 河出書房新社

ドイツの首都ベルリンにはカフェがたくさん。店内の家具やインテリアもそれぞれのお店の個性が光り、とっても素敵です。レトロで落ち着いたお店、カラフルでかわいいお店、シンプルだけどおしゃれなお店など、魅力的なお店ばかりで「こんなカフェが近くにあって毎日通いたくなるなあ」と思ってしまう。中には文化保護指定のアンティークカフェもあったり、雑貨屋が併設されたカフェがあったりとその種類の豊富さにも驚いてしまいます。

もちろん、肝心のメニューもおいしそう。女子の喜びそうなラテアートの施されたカフェラテや見た目のおしゃれなスイーツは見るだけで、お腹が空いてきます。

ベルリンを訪れた際には、カフェ探しを楽しみたいですね。

### \*開く前からもう物語は始まっている

943-エ 『はてしない物語』 ミヒヤエル・エンデ || 著 岩波書店

何のとりえもない少年バスチアンは、いじめっ子から逃れるために入った古本屋で一冊の本と出会う。なぜか強く興味を惹かれるその本をこっそり持ち出して、学校の屋根裏のおんぼろ物置に隠れながら読み始める。その本の題名は「はてしない物語」。崩壊の危機に陥ったファンタージェン国と女王・幼ごころの君を救うため、勇者アトレーユに託された探索の旅の物語。行く先も、求めるものわからない冒険の旅の話にバスチアンは夢中になるが、段々とファンタージェンの世界に、現実世界のバスチアンが取り込まれてしまう。草原の勇者アトレーユと愛馬のアルタクス、そして幸いの竜フッフルと魅力的なキャラクターたちが色々登場する物語の世界に、あなたも飛び込んでみませんか。ファンタージェンはあなたに「はてしない物語」の扉を開かずです。

### \*普通の子高生の普通でないトラブル トラベル

943-キ 『紅玉(ルビー)は終わりにして始まり』 ケルスティン・ギア || 著 東京創元社

今どきのドイツの女子高生が読んでいる本に興味はありませんか。児童文学作家の那須田淳さんがドイツで一番注目されている本と紹介するのがこのシリーズです。ドイツでは割としっかり内容が書かれ次に会話が来るといってオーソドックスな文体がメジャーですが、この作品は日本の今のタッチに近く、会話で行動描写をしているのが画期的なんだそうです。私たちには違和感なくよめるし、新しいタイプのタイム・トラベルとしても楽しめるし、なにより時代時代に合わせたコスチュームの描写が素敵です。ドジっ娘の主人公に完璧な美形男子という設定も日本的です。ただし、話の舞台はイギリスです。ドイツの人も素敵な物語の舞台にはロンドンという憧れがあるのでしょうか。

「トワイライト」が好きだった人は、きっと気に入ると思います。



## 図書館司書の「今月はこの本を読みました」



今月は柚子麻子さんの著書『あまからカルテット(B913.6-ユ 文藝春秋)を読みました。柚木さんの本は以前にも『ランチのアッコちゃん』を紹介しましたね。今回の『あまからカルテット』の主人公は4人の女子。ピアノ講師の咲子、編集者の薫子、美容部員の麻理子、料理上手で人気ブロガーの由香子、職種も性格も違うけれど、強い絆を持った4人の熱い友情あり、切ない恋愛ありの物語です。

そして、どの物語にも、とにかくおいしそうなお食べ物が次々に登場します。その中でも、表紙を飾るお稲荷さんは特別おいしそうで、「こんなにおいしそうなお稲荷さん、私も食べてみたい！」と心の底から思っていました。

楽しく読めて心がいっぱいになれる本ですが、お腹だけはいっぱいになるどころかペコペコになってしまいますので気をつけてください。

